

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校 自己評価表

教育目標	「ひたむき」「誠実」「謙虚」の学校づくり 社会人として求められる確かな学力や豊かな人間性を身につけさせ、自己の将来を見つめた職業観・勤労観に基づく進路実現を支援すると共に、「国際性・社会性・実用性」を重視した教育を推進し、国際的視野を持った、社会に貢献できる人材の育成に努める。			
目指す学校像	1 生徒・教職員、共に学び続ける学校 2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校 3 懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校 4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現が図れる学校			
重点項目	重点目標			達成状況
学習指導の充実	(1)	教師としての教科の専門性、指導技術の向上を図るために、「学び続ける教員」としての自覚をもち、日々研鑽に励む。	A	A
	(2)	「楽しく・わかりやすい授業」にすべく、校内研修(研究授業)や自主研修(教材研究)に励み、教科の指導内容、指導方法の工夫・改善を図り、授業を充実させる。	A	
	(3)	本年度をICT教育元年と位置づけ、教科指導にiPad等のICT機器を積極的・効果的に活用し、「楽しく・わかりやすい授業」を実践する。	A	
	(4)	少人数指導や習熟度別指導を生かして懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を行い、基礎的基本的な内容や発展的な内容の定着を図る。	A	
	(5)	生徒の家庭学習の習慣化を図り、予習・復習の学習習慣を定着させ、確かな学力の向上を図る。	B	
	(6)	東風アカデミーの充実を図ると共に、生徒の自主学習を支援し、生徒自身の学びを深める。	B	
キャリア教育の推進	(1)	自分の将来設計・将来展望の中に建設的に上級学校等への進路を位置付け、自分の将来に対して夢や希望が持てるよう指導する。	A	A
	(2)	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、進路別見学会、進路講演会、大学出前授業などの機会を提供し、進路(進学・就職)に対するしっかりとした動機付けを図る。	B	
	(3)	個々の生徒の進路希望、学力の実態及び今後の発展性などを常に把握しながら、より上位の進路目標を設定させ、その達成に向け全力を傾ける。	A	
心の教育の推進	(1)	生徒への気配り・心配りなどの配慮を旨とし、生徒理解のための教員と生徒との一対一の関係を重視した教育相談を日常的に実施し、生徒との信頼関係を構築して、心の教育を推進する。	A	B
	(2)	はるかぜ道徳を通して、人間としての在り方・生き方の教育を推進し、豊かな人間性を育む。	A	
	(3)	東風クラブ(カウンセシル、コミティー、パーティー、クラス)や学校行事、部活動などの特別活動を推進し、生徒間の交流を活性化させ、生徒の自主的・実践的な態度や社会性、自尊感情・自己有用感などの人間性を育む。	B	
	(4)	ボランティア活動や挨拶・服装等の向上を図るマナーアップ運動を展開し、社会人として必要なルールやマナーの基礎を育てる。	B	
不登校生徒や発達障害の傾向を持つ生徒への支援の充実	(1)	不登校生徒や発達障害の傾向を持つ生徒に対して、学校あげて全教職員が一致協力して組織的に対応する。その集約は、不登校対応教員が行い、具体的な対応の方策を提案する。	A	A
	(2)	不登校生徒に対して、担任、不登校対応教員及びスクールカウンセラーが定期的にカウンセリングを行い、また、家庭訪問や電話連絡を通して保護者との連携を密にし、外部の相談機関などの協力を得ながら、ケース会議を開いて具体的な係わりを明確にし、不登校の改善を図る。	A	
	(3)	発達障害の傾向を持つ生徒に対して、その障害の把握と理解を図り、ケース会議を開いて個々の生徒への関わりを明確にし、全教職員の共通理解のもとに対応し、その対象生徒が安定した学校生活を送れるようにする。	B	
開かれた学校作りの推進と募集定員の確保	(1)	広報誌(学校案内、各種パンフレット)を発行し、また、ホームページを充実させることにより、情報発信を積極的に行う。	B	B
	(2)	学校行事(東風祭、芸術鑑賞会など)や授業(教科、道徳など)を地域や保護者、中学生などに一般公開することにより、本校の教育活動の理解と周知を図る。	C	
	(3)	中学校や塾の教員対象の説明会を実施し、また、中学校や塾を積極的に訪問することにより、中学校や塾との連携強化と教員との信頼関係の構築を図る。	A	
	(4)	学校見学会、入試説明会及び入試対策学習会を実施し、本校への入学の動機づけを強固なものとする。	A	

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	1 日々の確実な業務遂行により、学校の教育業務を円滑に進める。	(1) 各種の実施計画原案を1ヶ月前に作成する。 (2) 関係部署との連絡調整を徹底する。	B		1 概ね達成できているが、細部の調整段階での遅れや漏れがあった。係内や係間の連携を密にする必要がある。
	2 担当係以外にも業務を理解し相互に補完する体制を作り、運用する。	(1) 係ごとに正副の担当者を配置し、相互に業務にあたる。 (2) 各係とも前年度の業務内容の引き継ぎを確実にして、運営面での抜けをなくす。	B		2 概ね達成できている。マニュアル化（明文化）が進むと安定度が増す。
	3 教員の授業力向上を図る（教育計画） ・授業計画の作成 ・研究授業の実施	(1) カリキュラムの適正な実施に常に注視し、履行できるようにする。 (2) シラバスの作成を授業単位で作成するよう依頼し、授業計画と評価規準を明確にする。計画に沿って実施されているかを長期休業前に確認し、軌道修正と注意喚起をする。 (3) 研究公開授業を教員ごとに年1回以上実施する。公開授業強化週間を設定し、順次できるようにし、公開授業後に観察教員の意見を集約	A	B	3 コロナ禍にあって臨時休業の対応をすることもあった。その影響で進度調整が必要となることもあった。遅滞なく学習に取り組める環境整備により一層取り組む必要がある。 研究授業のやり方を検証し、新たな方法論を模索する時期でもある。 I C T機器の効果的な活用と、生徒の学習理解に向けて、更なる研修や研鑽の機会を設ける必要がある。

		して周知する。 (4) ICT教育の活性化に向けて、実験と研鑽を積める機会を設ける。			
	4 授業の振替の徹底 (時間割) ・自習時間を極力なくすようにする。	(1) 授業担当者間での変更を原則とするが、振替案を提示する。 (2) 授業の抜けを防ぐ。自習時間をなくし、授業振替達成率100%を目指す。(授業時間の確保) (3) 定期考査監督割り業務を輪番制にして、チェック体制を強化する。 (4) マニュアル化して、業務を円滑に引き継げる環境をつくる。	B		4 緊急の授業振替がきかず、自習にせざるを得ない教科もある。授業振替達成率100%に向け、再考すべきである。また、習熟クラスの展開方法についても、更なる効果的な体制づくりが必要である。 考査の監督割り等は、マニュアル化が進み、円滑に業務遂行ができた。 考査未受験者の対応については、より良い方法を再考する必要がある。
	5 教科書・副教材の集約と事務処理の徹底 (教科書)	(1) 次年度使用教科書の取りまとめと確認作業を正確に行う。 (2) 教科書販売の企画や運営を円滑に行う。	A		5 業務の流れが確立され、円滑にできている。
	6 正確な数値と生徒異動の管理 (文書統計)	(1) 月別異動報告の把握と報告をする。 (2) 会議録など文書帳簿類の管理を徹底する。 (3) 定期考査の後に成績個表を早期発行し、生徒の学習意欲を向上させ	A		6 業務の流れが確立され、円滑にできている。成績個表の活用法を再考し、生徒の学習意欲に結びつけたい。

		る。			
7	教職員使用の消耗備品適正数の把握と管理 (備品)	(1) 教室の学習環境を整え、授業などの学習活動がスムーズに行えるようにする。 (2) 適正な数の把握をし、消耗品の費用を抑える。	A		7 業務の流れが確立され、円滑にできている。
8	図書館担当の事務職員との連絡調整の徹底 (図書)	(1) 図書室を開室し、学習する場を提供する。	A		8 業務の流れが確立され、円滑にできている。
9	情報集約と確実な配車(バス配車)	(1) 学校行事などの特別編成時に抜けがないようにする。 (2) バス運行会社との連携を密にし、安全運行に寄与する。	A		9 日々抜けなく業務の遂行ができた。利用性とのニーズに応えられた。

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路指導部	1 将来に対して、夢や希望が持てるようにする。	進路講演会、進路別見学会を実施し、進路を考えるきっかけになるものを企画する。また、医療看護については各学年の状況に合わせて医療講話を実施。校外の体験学習が企画できない状況を補う。	B		校外で実施している進路ガイダンスや、校内での進路ガイダンスなど、予定通り実施できた。ただ、医療系に関しては、コロナ感染症拡大のタイミングと重なることが多く、講話や体験学習の実施回数が少なかった。次年度は、就職希望者向けの外部ガイダンスの参加を計画したい。 コロナ感染拡大の影響もあり、日程変更などあったが、予定通り実施できた。 3年生では仲介業者を通さず、通学可能な大学に来ていただき、校内ガイダンスを実施することが出来た。 また、LHRを活用した担任による進路指導も実施できた。
	2 興味のある学問や職業に必要な進路知識を身につけられるようにする。	本校の状況に合わせ、大きく3つの分野（大学進学・就職・医療看護）の模擬試験を実施することや、その対策（各教科へ模擬試験の過去問の提供）にも力を入れる。	A		
	3 全生徒が卒業後の進路を決定できるよう、所属学年の進路指導部担当者が中心となって活躍する。	コロナ禍で学校見学に参加できない現状を補う目的で、年間計画以外に、各学年独自の進路企画を行う。各学年に必要な内容を学年部と協議し、LHRを利用して行う。具体的には仲介業者を通さず、直接各学校の入試担当者を迎えて（またはZOOM）、本校で進路講演などを行う。	A	A	

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
生徒指導部	1 交通ルールへの遵守とマナーの向上	(1)交通安全指導の徹底。 (2)巡回・立哨指導の実施	B	B	1 今年度の交通事故発生件数は2件であった。昨年度よりも減少したが、来年度こそは0件を達成したい。 2 今年度の目標を継続し、基本的な生活習慣の確立を目指す。特に服装指導に力を入れる。 3 今年度の目標を継続するとともに、郊外巡回を実施したい。 4 学校行事は、工夫して実施することができた。東風クラブ役員の指導とコミティ活動は次年度も指導を継続していく。
	2 基本的生活習慣の確立	(1)面談における注意喚起。 (2)保護者への協力依頼。 (3)生徒への積極的な声掛け。	B		
	3 問題となる行動の未然防止	(1)校内巡回の徹底。 (2)情報の収集と共有。	A		
	4 学校行事の活性化と工夫	(1) 東風クラブ役員の指導 (2) コミティ（委員会）活動の活性化 (3) 生徒の主体性の育成	B		

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健厚生部	1 健康や安全に関する基本的な知識や習慣を身につけさせる。	(1) 保健厚生部長，養護教諭，学年部長，担任の連携を強化する。 (2) 保健だよりを発行する。保健に関する意識を高める。 (3) 新型コロナウイルス感染予防として，マスク着用の徹底や毎朝の検温，健康観察を行い，手洗いやアルコール消毒に努めさせる。	B		1 更なる横のつながり，各部の連携強化が必要である。 有効的なサーモグラフィの設置方法を考える。日直にて準備出来ないか職員会議に提案する。そのかわり，ゴミ捨て場の施錠は保健厚生部で行う。
	2 快適で安全な環境づくりに努める。	(1) 教室環境の整備をする。 (清掃用ロッカー， 傘立て等の管理・整備) (2) 環境美化の充実。 清掃活動や清掃用具等の整備などを通じて，環境美化を図るとともに，物を大切に作る人間性を育む。 (3) 下駄箱の新規設置。	B	B	2 生徒が主体的に動ける清掃分担方法と教員の監督制を考える。学校説明会前だけ念入りに清掃するのではなく，普段から生徒による清掃でキレイに出来る状態にする方法を考える。一例として、清掃担当の監督制ではなく，見回り制など。
	3 教育相談の充実。	(1) 特別支援教育に関する情報を共有化することにより，素早くきめ細かい教育相談を行っていく。 (2) 教育相談だよりを発行する。人格の成長への援助を図る。	A		3 教育相談だよりを毎月発行できた。来年度も継続する。 きめ細かな教育相談を徹底していく。

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 保護者の会の円滑な運営を図る。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者の会総会は、書面表決とする	A	A	コロナ禍の中で、生涯学習委員会の活動がここ2年行われていない。保護者とも相談し、できる内容を提案してもらおうとよいかもしれない。
	2 地域的な活動に協力する。	自治体の判断により、参加不参加を決定する。 *すべて中止	C		
	3 対外的な諸活動を滞りなく行う。	式典のメッセージカードの発送、お礼状の発送、年賀状等の準備を早めに滞りなく行う。	A		

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
入試広報部	1 入学者を確保する。 特別進学、進学、医療進学の各コースで入学者を増やし、5クラス編成を維持する。	(1) 受験者の確保 (2) 説明会への動員数の増加 (3) 個別見学・相談の充実 (4) 中学校・学習塾との信頼関係の形成 (5) HPの充実、情報発信の強化 (6) 制度の確立と分担による効率化	A	B	昨年度入学者は減少に転じたが、今年度は増加が確実である。女子生徒・医看コースの入学者の確保が課題である。 コロナ禍のもとHPの刷新や新しいコンテンツの導入を図り、受験生・保護者に本校の魅力を発信していく。 引き続き面倒見の良さ、多様な生徒を受け入れ、向き合う教育の実践、道徳による心の教育、ICT教育の取り組みを広くアピールする。
	2 受験者を確保する。 推薦・一般単願・一般併願の各入試区分で増員を図る。	(1) 個別相談・見学会を活用し、中学生・保護者一人ひとりに働きかけ、本校の魅力を伝える。 (2) 推薦・単願優遇制度の企画。 (3) 学習会等の入試支援の充実。 (4) WEB出願を導入し、業務の効率化を図る。 (5) つくば国際高校との連携・調整を図る。	A		第二会場の利便性向上でさらなる受験者の確保に努め、引き続き本校を第一志望とする推薦・単願を希望する生徒への働きかけを強化していく。 特に、経済的な優遇制度の確立は急務である。 つくば国際高校と日程等の調整だけでなく、さらなる連携、人的な協力体制を強化していく。

	3 説明会への参加者を確保する。 学校説明会 3 回、部活動体験会 1 回、入試説明会 3 回、入試対策学習会 2 回における来校者数の増加を目指す。	(1) 生徒主体による親しみのある説明会を企画する。(はるかぜ広報サポーターの参加) (2) さわやかなポスター、学校案内によるイメージ戦略を図る。 (3) 女子中学生にアピールする。 (4) WEB 申込みにより利便性、効率化を図る。 (5) 広告媒体を活用する。	B	B	コロナ禍で従来通りの生徒主体、体験型のイベント実施が難しくなっている。イベント内容の見直し、実現可能な新たな企画運営をしていく。 動画配信など時代に即したコンテンツを活用して学校・教師・生徒の様子を伝え、親しみやすさをいかに感じてもらえるかが課題である。 道徳レポート、個々の質問への回答など一人一人に寄り添う丁寧な対応を引き続き実施していく。
	4 個別見学・相談の充実を図る。	(1) 土曜日開校日を有効活用する。 (2) 個性あるブースの設置、魅力的な広報グッズ配付を行う。 (3) WEB 申込による利便性の向上を図る。	B		「入試相談会」のような一律型のイベントは効果が薄く、個々のニーズに応えることは本校の募集の生命線である。現在の個別見学・相談の運営方法を担当個々の取り組みから脱却を図り、組織的に運営し、体系化する。

	5 中学校・学習塾との信頼関係を形成する。	(1) 担当者を明確にし、企画運営を図る。 (2) 全職員一斉訪問の実施（年間 3 回） (3) 中学校対象説明会の実施 (4) 学習塾対象説明会の実施 (5) 県南私学合同説明会への参加	B	B	全職員による中学校・塾訪問を継続実施する。特に学習塾への訪問を強化する。職員間の取り組みの偏りを是正する。 県南私立高として協力一致するよう各校に働きかけを行う。
	6 HP の充実、情報発信の強化を図り、閲覧者数の増加を目指す。	(1) 紙媒体から電子・WEB 媒体への切り替えを促進する。 (2) 入試広報部専用ページの充実 (3) 担当者を輪番制として、定期的更新で情報発信の強化	B		学校案内・「Data Book」・募集要項の最低限の紙媒体を早期に発行する。 HP での継続的な情報発信が急務である。新たな企画、特に学校紹介動画の制作に着手する。
	7 制度の確立と分担による効率化を図る。	(1) 年度当初に各企画・運営の分担をする。 (2) 定期的に部会議を行い、業務の進捗状況を確認し、各係で連携して取り組む。	B		少しずつ業務の分担がなされるようになってきたが、各係が独立運営までは程遠い。さらなる業務の偏重是正のために、体制・組織づくりが課題である。 必要に応じて各係の連絡調整やリーダー会議など迅速・効率的な対応が求められる。

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
国語科	1 進路実現のための実力養成 ・語彙力 ・評論読解力・小説読解力 ・古文読解力・漢文読解力 ・表現力	(1) 入試頻出の漢字テキストを使用し、漢字テスト・追試等を実施する。また、古文単語テストも同様に実施する。(追試験の徹底) (2) 学期毎に、評論と小説を交互に一つずつ扱い、更に演習問題を行う。 (3) 古文漢文は、基礎的事項の習得に努めさせ、更に問題演習を積ませる。 (4) 1・2年の小論文対策は、夏休みから、第2学期にかけて実施する。	B	B	1 一般教養国語の総まとめとしてのテキストを使用した。知識の定着が図れ、進路実現に効果的であった。来年度も継続使用する。 小論文対策として予定していた模擬テストが実施できなかった。来年度は実施する。
	2 社会生活を営むための基礎力養成 ・常用漢字を基本とする語彙力 ・一般教養としての国語基礎	(1) 漢字テキスト(常用漢字の全て)に基づき、漢字テストの定例化とともに知識の定着を図る。(追試験の徹底) (2) 漢字検定や日本語検定の受検を奨励する。(過去問等を適宜使用し、意識を高める。) (3) 小テストにより、文学史・故事成語・四字熟語・ことわざ等の基礎知識の定着を図る。	A		2 漢字テスト等の小テストは定例化し継続指導した。また、間違い直しも徹底することができ、今後も継続指導する。

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
地歴公民科	1 ICTを活用した授業づくり	(1) web ソフトウェアを活用し、写真や地図の拡大・縮小、画面への書き込み、映像視聴等から理解力を高める。 (2) タブレットを活用し、積極的に協働学習を行い、思考力、判断力、表現力等を育成する。	A	B	1 (1) (2) 1年生では、主にロイロノートを用い、視聴覚授業やAL型の授業を実施することができた。また、2・3年生においても、自粛期間中のオンライン授業を率先して実施することができた。次年度以降も、引き続きタブレットを使用した授業展開を実践していく。
	2 進路目標に応じた受験指導	(1) 身近な社会的事象を題材として扱い、その原因と問題解決について分析し、筆記試験だけでなく、面接試験や小論文試験にも対応できる力を身につける。 (2) 演習授業や課外授業、個別指導などを行い、生徒の進路目標に応じた学力を育成する。	A		2 (1) 定期考査では、時事問題を取り入れ、普段から時事に関心を持てるような働きかけを行った。また、単元の終了時や、社会的な事象を取り上げた際には、論述させるなどの工夫を凝らした。次年度以降も継続して行う。
	3 教員の指導力向上	(1) 大学入学共通テストの過去問題、試行問題等から、求められる力を分析し、授業に反映する。 (2) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。	B		2 (2) 受験科目又は大学進学時の課題等で特に必要な生徒には個別に問題演習を行うなど、個々に合わせた取り組みを行った。次年度以降も継続して行う。

				3 (1) 前年度から実施されている大学入学共通テストから、傾向や対策について研修する。 3 (2) 今年度は各教員 2 回の研究授業を行った。各コースの特性を踏まえ、生徒が主体的に参加できる授業を考えていく。
--	--	--	--	---

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
数学科	1 基礎学力の定着	(1) 習熟度別授業や個に応じた指導を行う。教科書の基礎的な部分の理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。必要に応じて、放課後や長期休業などを活用して個別指導を行う。	A	B	生徒の習熟度にあった課題を用意し、放課後や家庭において、生徒が自ら意欲的に学習に取り組めるよう工夫する。
	2 継続的な学習習慣の育成	(1) 授業ノートや演習ノートの点検を随時行う。また、定期的に宿題を課し家庭学習の習慣化を図るとともに、小テストを実施し、学習への意欲を喚起させる。	B		宿題を課す際に、ICT機器も活用し、家庭学習の定着につなげたい。
	3 進路目標に応じた受験指導	(1) 進路目標別授業を実施し、大学入試、専門学校入試、公務員試験、就職試験など、それぞれに対応する演習を行う。 (2) 演習授業や放課後や個別指導などを利用して、生徒の進路目標に応じた数学の学力を育成する。	A		大学入学共通テストをはじめとする大学入試のための教材を充実させる。また、その指導を充実させるため、傾向や対策について研修する。

	4 I C T機器の活用	(1) 多様な生徒たちに，それぞれのレベルや進度で進められる教材を提供し，理解度や学習意欲の向上を目指す。	B		I C Tを活用した授業を実施するにあたり，研修を積み指導者に必要な知識や技術を習得する。教材作成から授業実施までの計画を立て，I C T教材を有効に活用できるようにする。
--	--------------	---	---	--	--

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
理科	1 学習意欲を高める。	(1) 知的好奇心や探求心を持たせるため、目的意識を持って観察・実験を行う。 (2) 教科書、教科書傍用問題集を主に使い、予習復習がしやすいようにする。 (3) パワーポイントや動画を用いて視覚にうったえた授業を展開する。	B	B	1 観察・実験を引き続き行い、探求心を養いたい。iPadを用いた授業を展開し視覚にうったえる授業をする。 2 自分の意見を分かりやすく他者に伝えられるようにするため、レポートの作成を行い発表させる。
	2 思考力・表現力を高める。	(1) 人前で発表するのが苦手な生徒が多いので、まずは書くことにより、表現力を身につけさせる。 (2) 演示などの実験を通じ、レポート作成をさせる。他者の意見を聞いて新しい考えに気付いたり、自分の考えを再確認したりしながら、自分の意見を他者に分かりやすく伝えられるようにする。 (3) 発表など能動的な授業態度を評価していく。			3 各単元で確認テストを行い、学力の定着を図る。また、iPadを用いて知識・理解を向上させる。 4 生徒達が自分の進路に合った課外を受講できるよう、基礎から応用までの講座を設ける。

	3 知識・理解の定着を図る。	(1) 単元ごとの小テストを実施し、学力の定着に努める。 (2) 定期考査対策として教科書傍用問題集や、スタディーサプリ（TTC教育）を活用し、知識・理解の定着を図る。	A		
	4 進路希望に応じた指導をする。	(1) 課外を実施し、受験に向けた基礎から応用までの指導をする。 (2) 受験に向かわせるために、レポート制作を取り入れ、推薦・総合型入試対策を企画する。	A		

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健体育科	1 興味・関心を引き出せる指導の工夫	(1) 生徒の実態に応じた簡易ゲームなどを取り入れ、生徒の競技への関心を高める。	A	A	生徒の適正に合わせた体育実技が展開できた。1年生は基礎を学び、2, 3年生で実践することができた。ただし見学者が増えてきたので、次年度は全員が参加するような工夫をしたい。 保健の授業においては、生徒の実態に合わせて、工夫した授業が展開できた。ただしコロナ過であったり、寡黙な生徒に対応するために、今年度以上にタブレットを使用し、グループでの学習を改善したい。
	2 実技テスト、知識テストの導入	(1) 授業に合わせた実技テストを導入する。 (2) 実技が苦手な生徒のためにルールなどの知識テストを導入し、授業でのルールをおぼえさせる。	A		
	3 授業中の服装の徹底	(1) 授業前に確認を必ず行う。 ポロシャツやTシャツの確認を行い、健康に留意する習慣をつくる。	A		
	4 保健の授業に於いて生徒を積極的に授業に参加させる工夫	(1) グループ学習や、発問を工夫して、多くの生徒が参加できる授業を行う。 (2) IPAD を積極的に活用させる。	B		

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
芸術科 (音楽・ 美術・ 書道)	1 生徒一人一人の個性に応じた感性を引き出し、伸長する。	(1) 芸術的表現力(演奏・表現・書写)や技術の向上を図る。 (2) 作品鑑賞を通して、自己や他者の価値意識を育てる。 (3) 指導者の経験値や考えを強調しすぎないようにする。	A	A	コロナ禍の影響で、実技指導時間が不足気味であった。 古典芸能・伝統芸能の理解のため、芸術共通のコラボレーション授業の実施を模索したい。これにより生徒が選択している科目以外の内容理解と興味関心を引き出すチャンスとなり、生徒個々の情報発信の一端になることが期待できると考える。
	2 我が国の伝統芸能の一端を理解し、尊重する態度を養う。	(1) 古典芸術の作品に触れる機会を多くする。 (2) 伝統芸能(邦楽・雅楽, 工芸, 書道)の技法や歴史を理解する。 (3) 日本独自の芸術文化をアピールする材料を探り、生徒自身が情報発信できるようにする。	A		

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
英語科	1 Live を意識した授業の実践	(1) 生徒の学習状況を理解し、双方向型授業を構成する。定期的に小テストを行い、生徒の理解度を把握する。 (2) 特進・医看クラスでは、共通テストを意識し、リスニングと速読を中心とする。進学クラスでは、生徒が主体的に取り組める活動を取り入れる。	B	B	1(1)定期考查の平均点から振り返ると、生徒の理解度をきちんと測れた授業展開が出来なかったクラスもあったように思われる。教員側に、生徒は分かっているだろうという思い込みがあったように思う。定期考查だけでなく、小テストを行いながら、またはアウトプットを意識した授業展開ができていれば、また異なった結果になったと思われる。 次年度への課題として、章毎に英語科教員で重点的に教えるポイントを確認し合い、分かる授業を展開したい。 1(2)3年生特進,2年生特進・医看,1年生特進において共通テストを意識した授業を展開することができた。次年度も継続したい。 2(1)(2)(3)ICTを授業内において工夫しながら使用することができた。使用方法が限定的になったことが反省点である。他教科の使用方を参考にしながら、発展的な使用方法を模索したい。 3(1)英検,TOEIC等の検定試験に計画的に取り組み、個々の英語力アップにつなげた。受験をしない場合でも、過去問を解き、個々の指導力アップにつなげた。(2)全員が共通テスト筆記・リスニング共に解き、傾向を把握した。(3)それぞれのクラスに応じた授業展開を日々模索した。研究授業では、ICTを利用した授業を行うことができた。良い点を参考にすることができた。
	2 ICT（情報技術）を意識した授業の展開	(1) ICT（情報技術）利用が目的とならない利用方法を教科内で共有する。 (2) 他教科における ICT（情報技術）の利用方法を参考とし、英語科における活用方法を検討する。 (3) ロイロノート・スクールを利用しながら、生徒の実態に応じた利用する。	B		
	3 学び続ける教員 ・ 民間の英語4技能検定の受験 ・ 問題研究 ・ 研究授業を一回以上実施する	(1) 英検,TOEICに加え,GTECなど、民間英語4技能検定を受験または過去問を解き、自分なりの教え方を確立する。 (2) 共通テスト筆記100点・リスニング100点を全教員が目指す。 (3) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。	B		

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
情報科	1 パソコン室のシステムの理解 (生徒・教員)と安定的な運用。 Google アカウントなど, ICT 推進委員との連携を図る。	・ ICT 教育で活用するアプリに必要な google アカウントの管理・作成	A	A	パソコン室の管理運用は今後も継続。 今後も, ICT 化に伴う様々なアカウントの作成管理を伴うため, ICT 推進委員会との連携が必要。
	2 高校卒業後に困らないような基本的な技術の習得	・ 携帯端末(スマートフォンやタブレット)は操作できるが, パソコンになれていない生徒が多く, 進学や就職時に困る生徒が多い。情報科では, パソコンを使うことを中心にする。	A		
	3 情報モラルの向上	・ SNS に関するトラブル指導 ・ 著作権など, 法律に関わる指導	A		モラル教育に関しては, 2 年間かけて繰り返し指導した。今後も継続していきたい。

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第1学年	1 基本的生活習慣の確立	(1) 年間を通して、挨拶・返事の指導の重視 (2) 遅刻・欠席をしないようにする指導 (3) 学校内のルールについての共通理解	B	A	(1) 自ら挨拶できるように、教員自ら挨拶することを、引き続き心がける。 (2) 生徒に変化があれば、学年会や親に報告し、問題早期発見早期解決をして、遅刻欠席減少を目指す。 (3) ルール違反があれば、すぐに、HR や学年集会で共通理解を生徒に伝える。
	2 人間関係を築く力の育成	(1) 道徳、SST（関野先生と連携）、特活、学校行事を通して人と関わる力を養う。	A		授業だけに留まらず、日常生活にも、レジリエンスを活用させていく。
	3 部活動や特別活動の推進	(1) 部活動や学校行事に対して積極的に参加し、自ら考え協力して活動できる機会を作る。	B		コロナ渦で自粛することが多々あったが、その分1つ1つの行事を貴重だと思い、次年度に挑む。
	4 ICT 教育の充実	(1) iPad 使用を習慣化し、連絡や宿題のときに使用する。 (2) 授業でも、iPad を活用する。	A		(1) 連絡手段として活用できた。生徒が、毎日 classroom を確認する習慣をつけさせる。 (2) 引き続き、授業担当者に使用するようお願いし、生徒は毎日学校に iPad を持参するように呼び掛ける。

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第2学年	1 受容と共感をベースにした面談の実施	(1) 定期的に生徒面談を実施し、良好な関係を築く。年間5回以上の面談を目標とする。 (2) 夏季休業・冬季休業期間を利用し、保護者面談を実施する。年間2回以上の面談を目標とする。 (3) 行事を通し、クラスメイトと協働することで、お互いを尊重する機会を設ける。 (4) 考え議論する道徳を展開し、他者を尊重する姿勢を身につける。	B	B	1(1)(2)定期的な面談を各クラス実施することができた。また、定期的な面談に留まらず、生徒に寄り添う姿が一年を通して見られた。保護者面談においても、生徒の実状に応じた対応を心掛け、信頼を得ることができた。次年度も継続したい。 1(3)(4)東風祭、プラムカップ、学年レクを通し、クラスが協働する機会を設けた。また、道徳を通し、他者を尊重する姿勢を身につける授業を展開した。授業に留まらず、学校生活全般においても言葉掛けを行った。3年次に成年を迎えることを意識させ、行動に責任感をもたせたい。
	2 基本的な生活習慣・学習習慣の確立	(1) 手帳を用い、起床時間・就寝時間を日々記録する。また、自ら予定を管理し、必要なものを準備する習慣を身につける。 (2) 学期の節目ごとにアンケートを実施し、生活実態を把握する。生徒の実情に応じたアドバイスを行う。 (3) ICT（情報技術）を用いた学習支援を行う。（ステディサプリの利用）	B		2(1)手帳の利用を習慣化し、自らの予定をプランニングできる生徒が増えた。しかし、生徒任せでは、まだまだ定着していない。次年度は、朝夕のSHR, LHRでは手帳を準備することを徹底したい。PDCAサイクル最終学年としての意識を再確認したい。 2(2)各種アンケートを実施し、生徒理解の一助とすることができた。 2(3)特進・医看では、長期休暇にスタディサプリを利用し、課題を配信することができた。今後、生徒の実態に応じた支援を行いたい。

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第3学年	1 個々の進路目標を達成する	(1) HR活動や道徳の時間などを通して、目指すべき進路設定を行い、実現に向けて課題を見つけ、取り組ませる。 (2) 年5回以上の面談を通し、基本的な生活習慣や学習習慣を身につけさせ、進路に意識を向けた環境づくりをさせる。	A	B	(1) HR活動を通じ、計画的に個々に応じた受験対策を講じることができた。さらに、ICTを活用して進路指導を行っていきたい。 (2) 定期的な面談だけでなく、生徒の実態に合わせて二者面談，三者面談を行った。面談では直接的な進路指導だけでなく、生活習慣についても伝えていきたい。
	2 学校の活性化を図り，社会の中で生きる力を育成する	(1) 部活動や学校行事に対して積極的に参加し，自ら考え協力して活動できる機会を作る。 (2) 進路決定後も面談を通し，新しい環境に対応するための準備を考え取り組ませる。	B		(1) 積極的に学校行事に参加する生徒が多かった。さらに多くの生徒が参加できるように，事前指導を丁寧に行いたい。 (2) 進路決定者に対して，個々に応じた準備を提案することができた。早期決定者に対して，全体でのガイダンスなどを計画していきたい。